



報恩講 嚴修

今年も十一月一日から三日まで、遠近各地より多くのご参詣のもと、高山別院の報恩講を勤めさせていただきました。厚く御礼申し上げます。また、報恩講をお迎えるにあたり、教区内各組の皆さまには、ご奉仕をいただき、期間中は、ご住職はじめ坊守・門徒会・婦人会の皆さん方にはご多用の中、ご協力を賜りましたこと重ねてお礼申し上げます。



報恩講は私たち真宗門徒にとって一番大切な「仏事」であることは承知のことですが、迎える私の中で本場に大事な「仏事」となっているのが問われた今年の報恩講でした。毎年お勤めしているうちに大事な仏事がいつの間にか「行事」になっていたのでないかという自戒の念であります。蓮



如上人は、大谷本願寺が比叡山衆徒によって破却されて以降、十三年の永きにわたって、畿内・北陸の各地を転々とされ、文明十年(一四七八)京都近郊の山科に移住されました。そして二年の歳月をかけ、十二年八月に念願の御影堂を建立され、大津近松に預けてあった親鸞聖人の御影像を遷座して報恩講を勤められました。このとき蓮如上人の喜びは一樣ではなく、興奮のあまり夜も寝つくことができなかったそうです。

我が身をこの蓮如上人のお姿に照らしてみますと、なんとも恥ずかしい限りであります。これは、報恩講を勤める私の姿勢が問われることでもあります。「ひとつことを聞きて、いつも、めずらしく、初めたる様に、信のうえには、有るべ

発行 真宗大谷派 高山教務所
 発行者 出雲路 善公
 〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
 ☎(0577)32-0776
 *毎月20日発行 50,000部
 三市一郡無料配布
 印刷 山都印刷株式会社



きなり」という蓮如上人お言葉が示しておられるように、毎年報恩講を初事としてお迎えし、我が一人の事実立つということ。私にとって報恩講は、このこと一つを確かめる場としてその座に座り続けていくこと。それが、聖人のご恩を報謝させていただくことであると思っております。そしてまた、このような場が子々孫々まで伝えられていかなければならぬと思っております。

十一月三日には宗祖の御遠忌を迎える出発として決意集会を開催し、御遠忌法要計画を報告させていただきました。この度の法要は、本堂屋根の修復・耐震工事等の大修復事業と、真宗の教えを次世代に相続するという大きな課題を掲げて営もうとするものです。何卒ご理解・ご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

高山別院輪番 出雲路 善公

『ご坊報恩講のつどい』開催

10月31日(土)、飛騨仏教青年会主催による「ご坊報恩講のつどい」が開催されました。今年、「戦後70年を迎えて」をテーマに、中沢啓治作の漫画「はだしのゲン」を講談師・神田香織さんに演じていただきました。9歳の少年「ゲン」が必死で生き、平和な世界を願う姿が、講談の迫力と共に伝わってきました。また、本堂には原爆の図「幽霊」(丸木位里・俊作)も展示されました。来場者は原爆の落ちた広島という場面に立ち会い、戦争がいかなるものであったかを追体験しました。改めて非戦平和の思いを心に刻む時間となりました。



第一部の益田会場(湯屋小学校)には、約160名、第二部の別院会場には約260名の方がご来場くださいました。会場を変えての二部構成は初めての取り組みでしたが、たくさんの方々のご協力により有意義な時間を共有させていただきましたことを、



原爆の図「幽霊」が展示された会場

厚く御礼申し上げます。今後も、世の課題、人間の課題を皆さんと共に考えていく「つどい」を開き続けていきたいと思っております。

浄土の荘嚴と仏花

仏前を美しく荘嚴する仏花。高山別院では、10名の華方によって、一年を通して四季折々の花が美しく立てられ、本堂だけでなく、御坊会館、お内仏等別院すべての仏前を荘嚴しています。

毎年の報恩講の仏花は南天を使つて立てられます。昔は汽車で宮田駅までいき、別院報恩講のためと良い南天を準備してくださっている家を10件ほど回り背負つて持ち帰り、その南天をつかい立てていたそうです。

特に親鸞聖人の前には白の南天を使います。その謂れははっきりしないようですが、親鸞さまの法要やで特別なことや、とのこと。

10名の華方さんのお手次のお寺はそれぞれですが、遠くは神岡から、月に2、3日別院の華立てのために集まられています。しかし、華を立てる若い人もなかなかいなく、今後はどうなっていくかと心配されています。

華方さんによって仏前を美しく荘嚴する仏花。その裏には様々なご苦労、お気持ち、またこれまで受け継がれてきている大切なもの、それを受け継いでいく難しさ等々目に見えない様々なものがあり、仏前を荘嚴する美しい姿から、静かに私たちに関わっています。



御遠忌・御修復決意集会

11月3日の報恩講結願日中、法話終了後に、『高山教区・高山別院宗祖御遠忌・別院本堂御修復決意集会』が約400人のご出席をいただき開催されました。高山教区・高山別院では、二〇一一年の本山御遠忌法要後、御遠忌推進委員会が設置され、別院本堂の屋根改修と耐震補強、さらに御遠忌をどのようにおとめするか検討が重ねられてまいりました。このたびようやく「御遠忌基本計画(案)」が取りまとめられたことから、いよいよ教区・別院一丸となつて御遠忌御修復推進の決意を固めていく場として、決意集会が開催されました。

集会では、窪田哲御遠忌推進委員長による決意表明の後、光雲寺住職・江馬耀準氏、玄興寺門徒・古瀬かよ子氏、長圓寺副住職・白尾匡氏に御遠忌に臨むにあたっての所信を語っていただきました。最後には参列者から拍手をいただき、御遠忌に向けての決意を受け止めていただきました。

今後、諸手続きを経て、明年にはご懇志のお願いをまいります。何卒、ご理解のほどお願い申し上げます。

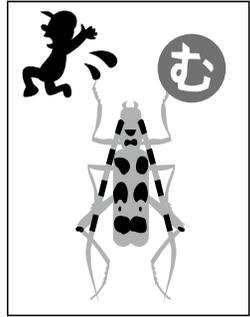
なお、一月に『ひだご坊』御遠忌特別号を発行し、二月号以降は御遠忌御修復の動きを紙面にて掲載してまいります。

☎テレビホン法話(0577)(34)2313
 ○11月21日~30日:伊達俊幸氏「稱讃講」
 ○12月1日~10日:小原正寛氏「専念寺」
 ○12月11日~20日:窪田哲氏「圓徳寺」
 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

女と男の

ナムアミダブツ⑩

藤場 芳子



虫にがて そんな男が いてもいい

五郎丸の涙

五郎丸が泣いた。それを見て、私もウルツと泣いてしまった。テレビや新聞でさんざん取上げられたので、今さら説明するまでもないと思...

押し殺される感情

今、「男泣き」とわざわざ「泣き」をつけたのは、男はめったに泣かないという前提があるからです。「泣く」ということでは、私には忘れら...

れないある男性の言葉があります。研修会でのことでした。その人はこんな話をしてくれました。「私...

「男らしさ」と言えば、勇気、リーダーシップ、経済力など強さが強調されてきましたが、今は「イクメン」(外見がいい男性)や「イクメン」(育児する男性)が求められていますし、それに加えて最近では「イケダン」(イケテル旦那)もあるそうです。容姿が良く、しかも洋服のセンスがいいおしゃれな夫。妻と一緒に歩いていると恥かしくない夫だそう。女性からの理想が高すぎて気の毒に思えてきますが、今まで男性が女性に求めてきた容姿端麗・良妻賢母のツケが回ってきたようにも思えます。

男もつらいよ!

そんな男性たちに少しでも楽になつてもらおうと書かれたのが、『男もつらいよ!』(石蔵文信著、ソシム株式会社)という本です。石蔵さんは元々、循環器のお医者さんですが、男性更年期外来を開いて、これまで600人以上を診察しています。そこから見てくるのは、プライドや面子があるのでなかなか診察に来ようとしない、やっと来ても弱音を吐かない男性の姿とか。特に教師・医師・聖職者など尊敬される職業に多く、表向きの顔を維持しようとするからストレスがたまるのだそうです。

今回の句は「虫にがて そんな男が いてもいい」です。この句には男なんだから虫くらい素手で捕まえられるはずだという思い込みがあります。実際には虫が苦手

な男性もいるわけ。これまでも「男らしさ」と言えば、勇気、リーダーシップ、経済力など強さが強調されてきましたが、今は「イクメン」(外見がいい男性)や「イクメン」(育児する男性)が求められていますし、それに加えて最近では「イケダン」(イケテル旦那)もあるそうです。容姿が良く、しかも洋服のセンスがいいおしゃれな夫。妻と一緒に歩いていると恥かしくない夫だそう。女性からの理想が高すぎて気の毒に思えてきますが、今まで男性が女性に求めてきた容姿端麗・良妻賢母のツケが回ってきたようにも思えます。

分別と無分別

私たちは「あの人は物事の分別ができて立派だ」と言っているけれど、私たちが善悪・損得・優劣・「らしい」「らしくない」と分別するのは立場や時代が変われば変わってしまうのです。一方、無分別、つまり二つに分けないことこそ仏様の智慧(無分別智)だと言われます。以前、お寺にお話に来たお坊さまが「決めてまつしやんな」と度々おっしゃっていたのを思い出します。「決めてはなりませんよ」とは阿弥陀さまのお心だと思えます。あなたは他人を決めつけたり、時には自分自身を決めつけたりして、悩んだり苦しんだりすることはありませんか。

次回は酒井義一さんの「私を照らすひかりの言葉⑩」です。

子ども作品展

10月24日から11月7日まで、飛騨地域の小・中学生から出展された書道作品300点が別院本堂内に展示され、表彰式が11月7日の子ども報恩講中に行われました。入選者は次のとおりです。

【教務所長賞】

御坊報恩講 中三 桂川 真梨子

【輪番賞】

大如 悲来 六年 原田 みこと

【佳作賞】

- 洞口泰輝・杉山二郎・藤守央・山口弥華・道下じゅんや・山下紗世・澤田り子・野中優月・大江結斗・田中宥行・砂田幸音・石垣心音・藤本佑梨・二村紗史・道塚富星・橋本ゆい・西杏捺・竹内友哉・田中ひなの・三枝菜月・日面杏菜・畑中拓磨・松下加奈・今井瞳希・金子未夢・岡田京悟・坂上奈千・阪口侑河・田中みのり・陣出萌衣・藤井美月・宮崎明音・村上由莉・竹内太一・下方春果・谷口織姫・奈・池田遥菜・宮田千帆・山腰朱真・黒木太望人・池田楓菜・坂本龍乃・村上諒・幅上翔太・田中美帆 (敬称略)

12月 12月 4日(金)蓮乗寺「若達町」

第34回 別院真宗公開講座

【第2回】 日時 12月18日(金) 午後7時~9時

講師 近田 昭夫 氏 (東京教区顕真寺)

講題 「真宗は 素人感覚が大切 ―なぜ―と 問うこと―」

聴講料 600円 ※法話CD『念仏申す生活』(1,200円) 教務所にて販売しております。

高山別院 報恩講奉仕御礼

報恩講にはたくさんの方にご協力いただきました。あらためて厚く御礼申し上げます。

- 大谷婦人会高山支部・高山教区坊守会・別院華方・石浦華東会・八日町雅楽宮尚会・玄興寺雅楽会・仏教讃歌をうたう会・青少年教化小委員会・高山教区真宗同朋の会・高山一組真宗の会・高山一組同朋会代表者会・高山一組門徒会・高山二組門徒会・吉城組門徒会・益田組門徒会・玉翠会飛騨支部・二木社中・おあさじの会・飛騨御坊ボランティア委員会・飛騨仏教青年会 (順不同)

『高山別院子ども報恩講』開催

11月7日(土)、子ども報恩講が開催され、親子合わせて約100名の方々が参加されました。

今年も絵本「ひろしまのじ方」を題材に、みんなで戦争について考えました。講師の白尾匡氏(長圓寺)が絵本の感想を聞くと、多くの子が「こわかった」「戦争は悲しい」と答えました。「では、なんで悲しいんだろう?」と白尾氏がさらさらと話を進めます。子どもたちへの質問を重ねながら、他人の持っている答えを受け入れてしまおうではなく、それぞれが自分なりに「戦争がなぜ悲しいのか」の問いに対する答えを見つけてほしいという願いが込められていました。お話のあとは、寺宝館で「非戦平和展」を見学しました。

今年も子どもだけでなく家族で一緒に参加されている方が多く見受けられました。元気いっぱいの子供たちを見守る姿に、家族のつながりを感じるあたたかな報恩講となりました。

